



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年1月27日

上場会社名 東映アニメーション株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4816 URL <http://www.toei-anim.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高木 勝裕  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営戦略部担当 (氏名) 吉谷 敏 (TEL) 03-5318-0639  
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	30,339	16.0	7,377	21.9	7,739	21.8	5,551	36.9
28年3月期第3四半期	26,144	15.5	6,050	101.1	6,354	93.7	4,054	97.1

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 5,484百万円(31.2%) 28年3月期第3四半期 4,179百万円(88.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	406.95	—
28年3月期第3四半期	297.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	63,405	49,555	78.2
28年3月期	56,404	45,367	80.4

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 49,555百万円 28年3月期 45,367百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	95.00	95.00
29年3月期	—	0.00	—		
29年3月期(予想)				30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

28年3月期期末配当金の内訳 特別配当・記念配当65円を含んでおります。  
 29年3月期の配当金の予想値につきましては、当社の配当政策に基づき普通配当部分を記載しております。  
 29年3月期の期末配当金につきましては連結業績等を勘案したうえで、別途検討いたします。

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	35,400	5.3	7,700	0.8	8,100	1.3	5,800	12.7	425.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期3Q	14,000,000株	28年3月期	14,000,000株
29年3月期3Q	357,983株	28年3月期	357,937株
29年3月期3Q	13,642,033株	28年3月期3Q	13,642,063株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが本資料の発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスク及び不確実性を包含しております。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期の配当	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続いているものの、英国のEU離脱決定や米国の大統領選を巡っての不透明感等、世界経済の不確実性が高まる中、下振れリスクも抱え推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境におきましても、依然として少子化やテレビ用アニメーションの視聴率低下傾向、パッケージ市場の縮小、娯楽の多様化等により厳しい状況が続いておりますが、一方では劇場用アニメーションの活況、スマートフォンの普及による映像配信サービスやアプリゲーム市場の拡大、中国をはじめとするアジア市場の伸張、CG表現の進化による映像事業の多様化等、アニメーションビジネスの成長機会が見込まれる分野も数多くあります。

こうしたなか、当社グループは、国内で「ワンピース」、「ドラゴンボール」シリーズ、「プリキュア」シリーズ、海外で「ドラゴンボール」シリーズ、「ワンピース」、「聖闘士星矢」シリーズを主とした、テレビ・映画・ブルーレイ・DVD・携帯端末・インターネット等への映像製作・販売事業や、キャラクターライセンス等の著作権事業、キャラクター商品の開発や販売等を行う商品販売事業、キャラクターショー等を行うその他事業を展開しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は303億39百万円（前年同期比16.0%増）、営業利益は73億77百万円（同21.9%増）、経常利益は77億39百万円（同21.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は55億51百万円（同36.9%増）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります（セグメント間取引金額を含む）。  
なお、セグメント損益は、営業利益ベースの数値であります。

#### ①映像製作・販売事業

劇場アニメ部門では、3月に「デジモンアドベンチャーtri. 第2章」、「映画プリキュアオールスターズ みんなで歌う♪奇跡の魔法!」、7月に「ONE PIECE FILM GOLD」、9月に「デジモンアドベンチャーtri. 第3章」、10月に「映画魔法つかいプリキュア!」、12月に「ポピンQ」を公開しました。「ONE PIECE FILM GOLD」のヒットにより、前年同期に比べ大幅な増収となりました。

テレビアニメ部門では、「ワンピース」、「魔法つかいプリキュア!」、「ドラゴンボール超」、「セーラームーンCrystal」、「デジモンユニバース アプリモンスターズ」、「タイガーマスクW」の6作品を放映しました。前年同期に比べ放映本数は減ったものの、ゲーム向け音声製作が好調に稼動したこと等から、増収となりました。

コンテンツ部門では、前年同期にあった「映画Go!プリンセスプリキュア」のブルーレイ・DVDの売上に相当するものが当第4四半期以降にずれ込んだこと等に加え、ゲーム向け音声製作をテレビアニメ部門に組み込んだことから、大幅な減収となりました。

海外映像部門では、中国向け大口契約を含む映像配信権に加え、全世界で「ドラゴンボール」シリーズのテレビ放映権、中南米向け『ドラゴンボールZ 復活の「F」』及びアジア向け「ONE PIECE FILM GOLD」の劇場上映権の販売が好調に推移したことから、大幅な増収となりました。

その他部門では、ソーシャルゲーム『聖闘士星矢 ギャラクシーカードバトル』のサービス終了の影響があったものの、定額映像配信市場の拡大もあり、映像配信サービスが好調に稼動したことから、大幅な増収となりました。

この結果、売上高は120億10百万円（前年同期比11.9%増）、セグメント利益は30億22百万円（同19.3%増）となりました。

#### ②著作権事業

国内著作権部門では、アプリゲーム『ドラゴンボールZドッカンバトル』や「ONE PIECE FILM GOLD」の劇場公開に向けたタイアップ・販促向け許諾が好調に推移したことから、前年同期と比較して大幅な増収となりました。

海外著作権部門では、全世界でアプリゲーム『ドラゴンボールZドッカンバトル』や『ワンピーストレジャークルーズ』、中国で「聖闘士星矢」のアプリゲームが好調に推移したことから、大幅な増収となりました。

この結果、売上高は127億78百万円（前年同期比18.0%増）、セグメント利益は59億19百万円（同22.7%増）となりました。

#### ③商品販売事業

商品販売部門では、「ONE PIECE FILM GOLD」の劇場公開に向けたタイアップ・販促関連商品の販売が好調だったことに加え、海外のイベント物販も好調に推移したことにより、前年同期と比較して大幅な増収となりました。

この結果、売上高は46億69百万円（前年同期比25.8%増）、セグメント利益は1億88百万円（同1,848.1%増）となりました。

④その他事業

その他部門では、「聖闘士星矢」シリーズや「ドラゴンボール」シリーズの催事関連が好調に稼働したことから、増収となりました。

この結果、売上高は10億71百万円（前年同期比7.8%増）、セグメント利益は44百万円（同193.5%増）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、現時点では平成28年10月24日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました業績予想からの変更はありません。

なお、実際の業績は、当社グループの事業を取り巻く経済環境、市場動向、為替レートの変動等の様々な要因により、記述されている業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期の配当

当社は、株主の皆様利益確保を重要な経営目標の一つと考えており、中長期的な事業計画に基づく積極的な事業展開のための内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続的に実施していくことを基本方針としております。

内部留保金につきましては、アニメーション業界のグローバル・リーディングカンパニーになるべく製作プロダクションとして製作体制の充実を図るとともに、成長が期待されるビジネス機会に積極的に投資いたします。

配当につきましては、1株あたり年間30円をベースに、連結業績に応じて配当性向25%程度を基本といたします。また、期末配当の年1回を基本的な方針としております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得する建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響額はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,624,788	22,108,823
受取手形及び売掛金	6,327,244	7,669,790
商品及び製品	205,733	165,014
仕掛品	1,176,515	1,447,294
原材料及び貯蔵品	68,818	46,448
その他	4,343,501	4,101,337
貸倒引当金	△151,126	△36,652
流動資産合計	31,595,475	35,502,056
固定資産		
有形固定資産	5,270,183	7,049,568
無形固定資産	214,623	207,656
投資その他の資産		
投資有価証券	10,414,297	11,442,170
その他	8,950,609	9,342,803
貸倒引当金	△41,133	△138,918
投資その他の資産合計	19,323,774	20,646,056
固定資産合計	24,808,580	27,903,282
資産合計	56,404,056	63,405,338
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,971,780	7,301,387
未払法人税等	1,927,360	1,765,483
賞与引当金	260,039	125,518
その他	1,340,599	2,637,965
流動負債合計	9,499,780	11,830,355
固定負債		
役員退職慰労引当金	120,020	112,470
退職給付に係る負債	1,085,369	1,424,446
その他	331,092	482,416
固定負債合計	1,536,482	2,019,333
負債合計	11,036,262	13,849,689
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,867,575	2,867,575
資本剰余金	3,409,575	3,409,575
利益剰余金	38,134,806	42,390,384
自己株式	△543,591	△543,829
株主資本合計	43,868,364	48,123,704
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,100,656	1,725,574
為替換算調整勘定	398,772	△293,629
その他の包括利益累計額合計	1,499,428	1,431,944
純資産合計	45,367,793	49,555,649
負債純資産合計	56,404,056	63,405,338

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	26,144,663	30,339,017
売上原価	16,128,736	18,920,367
売上総利益	10,015,926	11,418,650
販売費及び一般管理費	3,965,828	4,040,704
営業利益	6,050,097	7,377,945
営業外収益		
受取利息	49,930	42,519
受取配当金	176,214	175,885
持分法による投資利益	67,313	67,197
その他	65,919	86,642
営業外収益合計	359,377	372,245
営業外費用		
為替差損	40,557	—
その他	14,552	10,589
営業外費用合計	55,110	10,589
経常利益	6,354,365	7,739,601
特別利益		
投資有価証券売却益	—	260,606
特別利益合計	—	260,606
特別損失		
減損損失	—	56,217
建物解体費用	220,000	—
特別損失合計	220,000	56,217
税金等調整前四半期純利益	6,134,365	7,943,990
法人税、住民税及び事業税	1,978,740	2,545,596
法人税等調整額	101,602	△153,178
法人税等合計	2,080,343	2,392,417
四半期純利益	4,054,022	5,551,573
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,054,022	5,551,573

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	4,054,022	5,551,573
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	199,504	595,605
為替換算調整勘定	△68,064	△692,402
持分法適用会社に対する持分相当額	△6,159	29,311
その他の包括利益合計	125,279	△67,484
四半期包括利益	4,179,301	5,484,089
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,179,301	5,484,089
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

該当事項はありません。